

第65回（平成15年度第4回）理事会議事録

財団法人 神奈川県スキー連盟

1. 日時：平成14年10月5日（土）午後1時～3時
2. 場所：神奈川県社会福祉会館 4階第2研修室（横浜市神奈川区沢渡4-2）
3. 出席理事：（副会長） 古郡 敬一，野地 澄雄
（専務理事） 山田 隆
（常務理事） 片 忠夫，渡辺 三郎，越前谷 芳隆
（理 事） 早川 博基，柴田 秀一，上田 英之，本田 衛義，
徳本 進，岡本 洋一，菊地 勇二，清水 忠，
栗田 謙悟，平沢 幸一
欠席理事：（会長）河野 洋平，（副会長）広瀬 稔，（常務理事）菊地富士夫
（理事）百海 延，堀 祐樹，斎藤 幸雄，長久保 巖，木村 徳善，本宮 敏宏
4. 出席監事： 井駒 利一
欠席監事： 徳田 盾夫
5. 議 長： 山田 隆専務理事を選出。
6. 議事録署名人：斎藤幸雄理事、木村徳善理事を選出。
7. 書 記： 大井 智子広報委員を指名。
8. 議 事

1) 報告事項

（1）慶弔関係 なし。

（2）資産運用状況

上田理事より、以下のように平成14年度の会計状況が報告された。

- ・ 8月時点の預金残高，一般収入，一般支出ともにほぼ平年並み。9、10月以降は登録料が入る予定。

（3）登録関係

柴田理事より別紙のとおり報告があり了承された。

団体脱退1団体、有資格者辞退8人、移籍届け／出10人、移籍届け／入18人

（4）各委員会の報告

① 広報委員会

- ・ 徳本理事より、「実業之日本社が発行する『Snow Boarder』という雑誌に，SAKのスノーボード関係の記事を毎月1回掲載することになった」と報告があり，了承された。内容は『スキージャーナル』への投稿と同じような性格で、告知に近い。

② HC（ハンディキャップ）委員会

- ・ 越前谷理事より
- ・ 「HC委員会はこれまで3回開催した。totoの宝くじの助成金(スポーツ振興くじ)がSAKに109万6000円出ることが正式決定した」と報告があった。
- ・ 山田専務理事より「来年も助成金を受けられる確証はない。予算を使い切るのではなく、助成によって余った金額を来年度に回せるような柔軟な対応をしていきたい」との意見が

あった。その方向で対応し、来年度の予算審議で、改めて了承を得ることになった。

- ・ 野地監事より、「助成をもらえる団体を調べて対応しては」とアドバイスがあった。越前谷理事は
- ・ 「すでに助成に対応する委員会を立ち上げて活動を開始している。10/26に委員会を開催する」とこれに答えた。

③ 総務委員会

- ・ 片常務理事より『北海道スキーツアープロジェクト』が活発に動いているが、プロジェクトマネージャーを務める百海理事がアキレス腱の手術をすることになった。本日午前中の総務委員会で話し合い、プロジェクトマネージャーの任務を佐藤生道さんに代行してもらうことになった」と報告があり、了承された。

(5) その他

事務所のPCネットワーク化

- ・ 片常務理事より、「事務所のパソコンが直った。個人データは個人のフォルダへ、共通データは共通フォルダへ入れるようルールづくりを進めていきたい」と報告があり了承された。岡本理事が、「壊れていたパソコンが修理されて戻ってきたので、全てのパソコンからインターネット、FAX、スキャナー、プリンターに接続できるよう設定した」と補足説明した。

(6) 教育庁への届出、役員の登記終了

越前谷常務理事より、上記の件が完了したと報告があり了承された。

2) 審議事項

(1) 専門委員の追加承認

佐藤 皓一 競技専門委員

- ・ 愛川所属。「学生時代を北海道で過ごした。SAKで若手育成に努めたい」との希望が読み上げられ、専門委員の追加が承認された。

(2) 平成15年度功労指導員推薦について

- ・ 片常務理事から、功労指導員（5人）、功労準指導員（5人）、名誉検定員（1人）の推薦に加え、2名追加の報告があり承認された。いずれも横須賀雪友クラブの草薨純也さん（功労指導員）と小林学さん（功労準指導員）。

(3) 予算の科目追加について

- ・ 今期から2年間、SAKが「南関東ブロック技術員研修会」の当番県となった。上田理事より「今年度は、会合などにかかる運営費が予算化されていないので、予備費から20万円をこれに当てたい」と提案があり承認された。「『スキー技術の調査研究』という事業の中に『南関東ブロック技術員研修会の運営』を追加する」（上田理事）ことになった。
- ・ これに関連して山田専務理事より「これまでは都連に出向いて会議を行っていた。せっかく監事県となったので今年度は会合を神奈川県で行いたい。千葉の監事県の時は千葉に出向く。会議は年に2回のみ。懇親会などは会費制で行うが、準備などにお金がかかることもある。経過の推移を見て、来期は予算の建て直しが必要になるかもしれない。また、これまで不明瞭だった各種大会の現地視察などにかかるコストや参加の仕方も今後きちんとルール化して予算立てしていきたい」との意見があった。

3) その他

① 行事参加について

- ・ 井駒監事（「各事業役員出席一覧表」の5、13とアルペン・ノルディックの2、3、4）と徳田監事（6とアルペン・ノルディックの8、9）の行事参加の確認。
- ・ 平沢理事より、山田専務理事と片常務理事がひとつの行事にバッティングして参加するケースが多いように思う」と意見があり、「この行事への参加がいまのところ可能という意味で○している。SAJ側の立ち合いとして参加する行事も多い」（山田専務理事）「できるだけ参加するようにしている。予算の関係もあるので調整する」（片常務理事）と説明があった。
- ・ 平沢理事より「1／17から1／19の『FIS 公認スノーボード選手権大会』は『3副会長とも参加不可能のため競技本部対応』とあるがこれはできないと思う」と意見があり、「検討する」（山田専務理事）ことに。
- ・ 「役員出席一覧表」の訂正。アルペン・ノルディック行事12の早川理事の○→上田理事の○に。

② 競技本部から視察の報告

- ・ 平沢理事より「菅平に視察に行った。長野県スキー連盟の上原専務理事から『長野県スキー連盟の国体ジャンプ予選会を1／21、1／22に木島平で行う。神奈川県の人が参加してもかまわない』と話を聞いた。エントリー費は8000円」「その足で妙高池の平に行き、池田会長と話をした。宿代を50万円から40万円に削減してもらうよう交渉成立した」「11／3に競技本部による『運営管理セミナー』を開催する予定。会場未定。興味ある理事は参加してほしい」と報告。

③ 教育本部からの報告と審議事項

- ・ 渡辺理事より「『第2回神奈川県・千葉県スキー技術選手権大会』の2回目の打ち合わせを千葉県で実施。渡辺理事と菊地理事を含め関係者が出席した。次回、10／19に県連事務所で実施する」と報告。
- ・ 渡辺理事より、「スキージャーナル社からビデオ50本届いた」と報告。これについて山田専務理事より「今年のテーマがはっきりしていないので、専門委員の希望者に購入してもらい見てもらおうと思い、今日の拡大教育本部部会に間に合うよう届けてくれと、スキージャーナル社に頼んだ」と説明があった。
→これを受け「ビデオは教育本部が買う物品として取り扱う」（上田理事）ことで承認された。
- ・ 渡辺理事より教育本部の審議事項として「専門委員の改選に伴い遠距離者の柳橋理事（山形県在住）と門脇理事（秋田県在住）が選ばれた。2万円を超える往復交通費をぜひ負担していきたい」との意見があり、「予算の範囲で対応」（上田理事）することで承認された。
- ・ 上記の件に関連して、山田専務理事から「今度SAJに『イグザミネー』という、専門員とは違う専門職の役職ができることになった。テストして落とされることもあるがSAKとして当てはまりそうな人材をみんなでサポートしていきたい」と情報提供があった。

④ 山田専務理事からの緊急提案

- ・ 山田専務理事から「スキー業界はかつてない底の底の状況にある。スキー人口は減りつづけ『このまま何もしなければ取り返しがつかなくなる』とSAJも危機感を抱いている。ほかの組織では2、3割会員が減ったところも。SAKとしても、新たに普及部を設けて大規模に啓蒙活動を行い会員を増やしていかなければ手遅れになる。今ならまだ間に合う。SAK

独自のシステムを構築するため、大至急なんらかの『仕組み』をつくりたい」と緊急提案があった。

- ・ 具体的には「『教育本部』の下に既存の仕事をこなす『教育部』と過去になくなった普及部を復活させる形で『普及部』を設ける。普及部の活動は『プロジェクト形式』とし、一般会員も参加できる形で新たな会員を掘り起こすためのプロジェクトを仕掛けていく。プロジェクトは理事会で審議する。言い出したわたしも、片常務理事と一緒にこのプロジェクトを進めていきたい」と山田専務理事より提案があり承認された。

⑤ 競技大会の運営について

- ・ 井駒監事より、「競技大会の運営で、現地でお手伝いしてくれる人に日当を支払いたい。それを県連として明文化していった方が望ましい」との意見があった。これを受け「規約・規定の問題になるので、そういうルールでやりたいということを競技本部で明文化して出して欲しい。それを規約・規定委員会にかけると手順になる」と、山田専務理事から話があった。

⑥ 有資格者の休眠システムについて

- ・ 柴田理事より「最近『子どもを産むためスキー活動できないので、その間登録を休みたい』とか、『検定員資格をしばらく返上して、時間ができたら復活させたい』といった電話の問い合わせが多い。SAJには資格休眠のルールがないので、SAK独自のルールをつくる必要性を感じる」との意見があった。「南関山田東ブロックでの議題にぜひ取り上げよう」と専務理事から話があった。

⑦ 大会でのオフィシャルスキーマーカー用具の使用について

- ・ 山田専務理事より「全日本スキー技術選の入賞者やナショナルチームのメンバーは別だが、一般の選手に対してどのメーカーのストックを使っているか、板は、帽子は、靴は、手袋は、とチェックすることは実質的にできない。これに対してSAJでは、今後『常識的範囲内でやっていく』こととなった。SAKでも、全日本スキー技術選に入賞しそうな選手以外は、自由にやってもらうようにしたい」との話があった。

⑧ 次回の理事会

- ・ 今後は必ず理事会の最後に「次回の理事会開催日」を決めていくことになった。理事会は月に1回のペースで開催する予定。
- ・ 次回の理事会開催日：11月16日（土）11：00から
開催場所：川崎市教育文化会館

以上、この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人、下記に署名する。

平成14年 月 日

議 長 印

議事録署名人 印

議事録署名人 印